



春季俳句会 (令和四年三月) 「句報」 兼題：梅 (子季語含む)

「選句」 赤文字：特選

「投句」 作品

作者

佑徳福稔  
 佐以茂  
 癒えし身に満ちくる五感上り鮎  
 坂道を香り走り来古梅林  
 ミス三丘人気投票青き春  
 凍る風行き先迷う救急車  
 五波六波医療集団春いまだ  
 西村敏治  
 西村敏治  
 西村敏治  
 西村敏治

亘由  
 由克志  
 崎福志  
 大鳥居くぐり三輪山風光る  
 梅白し母の形見のミシン踏む  
 梅咲いてコロナ退散待つシャッター  
 加龍恵子  
 加龍恵子  
 加龍恵子

永秀  
 根圧の梢(うれ)まで及び梅咲く(ひらく)  
 梅が枝は再起動せりすんすんと  
 肥後梅の蒼天を突く枝みどり  
 節分の余呉湖は藍を濃く更けぬ  
 草の芽を食める羊の影短か  
 佐藤多恵子  
 佐藤多恵子  
 佐藤多恵子  
 佐藤多恵子  
 佐藤多恵子

永展克多志  
 敏崎茂  
 佑  
 伸びすればみ空にひとつ奴風  
 香が誘う雅の世界夜の梅  
 散歩魔や神出鬼没に山笑う  
 白金のカイロ見直し探しおり  
 空耳や母の声する彼岸かな  
 戸堂博之  
 戸堂博之  
 戸堂博之  
 戸堂博之  
 戸堂博之

崎稔  
 福博  
 博  
 秀  
 梅林や温かい色遠くから  
 盆梅の百年の幹芸術だ  
 孫来ない今年も雛は箱の中  
 春の湖新しき竹 鮎 光る  
 草萌えを食むひつじ達日をあびて  
 佐藤茂弘  
 佐藤茂弘  
 佐藤茂弘  
 佐藤茂弘  
 佐藤茂弘

展志  
 敏由  
 展以  
 徳永  
 賜りてしかと抱きしめ晩白柚(ばんぺいゆ)  
 あと五分あと三分と春ねむし  
 出棺に蕾を零す枝垂梅  
 風花の声ある如く戯るる  
 淡黄梅透き通るまで枝に在り  
 中野亘子  
 中野亘子  
 中野亘子  
 中野亘子  
 中野亘子



【選句についてお願い】

- 一、お一人五句選句して頂き、その「句番号」をお寄せください。
- 二、選句の内「特選句」一句の番号の後ろに「特選」と記入して下さい。
- 三、「特選句」について、五〇文字以内で句評をお願いします。

投句、選句者氏名

( ) 内は選句者略称(五十音順)

網 佑子(佑)、井狩 修(修)、池川静男(静)、岩崎悦子(崎) 岩壺克哉(克)、加龍惠子(恵)  
楠野圭子(圭)、小松康子(康)、斎藤優子(優)、佐藤多恵子(多)、佐藤茂弘(茂)、戸堂博之(博)、  
富岡訓子(訓)、中野亘子(亘)、中野陽典(陽)、西田 稔(稔)、西村敏治(敏)、野本展子(展)、  
本多通博(通)、前田秀一(秀)、三木徳彦(徳)、都 福仁(福)、宮本智乃(智)、元永悦子(永)、  
山家由紀(由)、吉澤志保子(志)、吉田以登(以)

編集人 前田秀一